

生命保険文化センター賞

人生シミュレーション

宮城県 宮城県仙台二華中学校 三学年

今野 花香

生命保険に関する作文を書くとき母に伝えたところ、本棚から手書きの年表らしきものを取り出して見せてくれた。なんでも、私が二歳くらいの時に入った保険の営業職員さんに記入を勧められたそう。 「ライフプラン表」と記載されているそれは、縦軸に家族それぞれの氏名と今後のライフイベント、横軸には経過年数が六十年先まで記載できるようになっていた。ライフイベントは「住宅購入」や「新車購入」、「車検」「旅行」などが記載してある。

私の氏名が記載してある欄を見ると、小学校から大学まですべて「公立に進学」と書いてある。 中高一貫校のため、高校までは公立確定だが、大学も公立と決まっているらしい。 母曰く「大学で私立だと、うちの家計では非常にまずいことになる」と冗談半分、本気も半分くらい入った顔で言われてしまった。

この表に書き込むことで子供の進学年齢時の親の年齢が分かり、教育費がかさむ時期を予測しておくことができる。なるほど、人生を視覚化することによって、今後のライフイベントに備えていくことができるのだなと感心した。 また、収入と支出をある程度予測していても、親の病気などで収入が減ってしまった場合など、万が一の場合に備えてプランBも検討しておくといいそうだ。

私も見直すことの大切さについて実感した出来事がある。

私の祖父は昨年病気で亡くなった。五十年以上連れ添った祖母はお葬式には昔お世話になった方々にも来てもらいたいという気持ちがあったが、葬儀費用にいくらかかるのか、わからず途方に暮れていた。

祖父が亡くなってから改めて生命保険を確認すると、葬儀費用が捻出できるくらいの保険金が下りることが分かった。 コロナ禍でだいぶ制限された式ではあったが、それでも祖父が何十年前も前に一緒に働いた同僚の方々が遠方から来てくれて、祖母は「きちんとした葬儀で送り出せてよかった。」と何度も言っていた。さらに「もっと早く保険金について調べていたら、慌てることもなかった。」とも。 万が一の時を予測するのは難しい。しかし、まったく予測していないと慌てて行動し、あとから後悔するかもしれない。

避難訓練も一度経験することでいざというとき慌てずに行動できる可能性が高まる。

人生においても同じではないか。必ず起きるイベントについて考え、不測の事態もシミュレーションしておく。そのシミュレーションに沿った保障を考え

第61回中学生作文コンクール

ていく。そうすれば、万が一の場合も慌てることも少なくなるのではないか。私の母も、たまにこの表を引っ張り出して修正しているという。この表がなくても一手先くらいなら容易に想像できる。でも、十手先、さらには人生の終幕まで頭の中だけで予想するのは難しい。

私もこの表で人生のシミュレーションしてみよう。母が決めたレールに乗るのではなく自分で自分の人生について考えてみるのだ。

長い人生に寄り添うことになる生命保険。高価な買い物だとよく耳にするが、加入したから安心、ではなく、定期的な見直しや万が一のプランも視野に入れておくことが非常に重要だ。自分の人生なのだから。